町議会傍聴記 私のひとこと

富士見町議会を始めて傍聴させていただきました。冒頭から合併問題、大型安売り店等について質問や意見、それらに対する回答が真剣になされていました。時間制限があって、もう一歩突っ込んだ議論が聞けないのがはがゆい感じもしました。しかし、新聞報道や議会だよりでは汲み取れない雰囲気を感じることができました。

合併問題について、矢嶋町長自身が「昨日申し上げた、合併の際の機構統一について、新聞では、総務・企画は本庁に、とあったが、私は「・・・のようなもの」と述べたはずだ」と応えておられました。

9月9日の冒頭の議員質問・意見は論旨から合併に反対と判断できる内容のご意見でした。それは、かなり取材に労され、計画的に論を練られた感じがしたのですが、その後の新聞には報道されませんでした。まあ、もし報道されたとしてもなかなか議員さんが語った真意を表すことは難しかったでしょう。活字は便利ではありますが、発言者の表情まで伝えるにはかなり書き込まなければその意を尽くすことは困難です。限られた紙面で読者に伝えることは不可能でしょう。

私たちは、議会の様子を知るに、ほとんどは書かれたもので知らされています。

傍聴するのが一番でしょうが、多くの町民が傍聴しようと押し掛けたらそれも不可能です。原村のようにテレビ放送という手は傍聴に次ぐ、より立体的な報道方法でしょうが好きな時間に視聴というわけにはいきません。今の認知報道手段では、やはり書かれたものが一番なのでしょう。

私は、新聞の議会欄、ふじみ議会だよりを結構興味をもって読むほうですが、議員さんの取材の苦労や論の深いところまではなかなか伝わってきません。

冷夏にみまわれた今年の稲作、老夫婦の刈り取り作業

そこでこの議会だよりに議員さんがその意を十分に尽くした論説を少しでも伝えられるようなコーナーが設けられてはと思う次第ですが、いかがでしょうか。

（原の茶屋　茅野靖夫）

去る9月8日、富士見町議会を傍聴させていただきました。今回の中心課題は「6市町村合併」で、相当数の議員の方が取り上げておられました。今議会の前提はなんといっても、9月初日の合併に対する町長の賛成発言にありました。このニュースは、即日驚きとともに諏訪の平を駆け巡りました。どちらかというと町長は合併に対して後ろ向きと考えられていたからです。

合併の成否は今後の住民投票や議会の決議などまだまだ多くのハードルを経なければなりませんし、そのためには、住民の理解を得るための行政、議会の方々の多大なご協力が必要で、心よりエールを送りたいと思います。

戦後の地方自治を通じて、このような課題が自治体の自主的な判断を必要とされる場面は初めてのことであり、しかもこの判断の良否は今後10年間の内に必ず結果を見るものです。

富士見町を故郷とする者として、町民の皆様の将来が明るいものとなるよう、心からお祈りいたします。

（茅野市　平出一重）

編集後記

最近「地元学」を学ぶチャンスを頂きました。よそ者（周りの人）の目を借りて、一緒に歩き、調べます。当たり前すぎて、気づかなかったこと、新しい発見や大切に守り続けてきた事象など皆で話し合い、地域づくりを自分たちで考える、そのきっかけを作ることそれが地元学。

そしてその一番の先生は、地元に暮らしているおじいちゃん、おばあちゃん、農林漁業の職人達と子ども達で、その生徒は、働きに出ている大人や若者たちです。この言葉を聞いたとき、私は身の周りの忘れかけていたもの、人とひととの心の優しいつながり、ここにずーっと暮らしていたいと思える大切な自然環境、地域づくりの基本が地元学にあると気づきました。

判りにくい議会の様子をよそ者の目で見て、気づき、学び、情報発信し、開かれた富士見町議会につなげられるよう活動したいものです。

（小林　市子）

【編集委員】
編集委員長　小林　光
副委員長　平出　高博
委　員　小林　市子
委　員　エンジェル千代子
委　員　小池　久長
委　員　遠藤　正紘

No. 86
2003年10月15日発行
発行　長野県富士見町議会
編集　議会広報編集委員会
電話　0266－62－9403
〒　399－0292
印刷　(有) 高原堂印刷所